

桜ヶ丘地区（桜ヶ丘ハイツ連絡協議会）懇談会での主な意見と回答

日 時 平成29年9月30日（土）午前10時～午前11時30分

場 所 桜ヶ丘公民館

出席者 37人

市長による講演「住みごち一番・可児“安心”なまちから“元気”なまちへそして“楽しい”まちへ」の後、質疑応答が行われました。

【質問】市東部の活性化について

【回答】新しい工場は全て東部にできており、可児御嵩インターを中心に21号、市道56号線も整備しています。西部には可児駅前に公共施設が1つ建設中で、坂戸にグラウンドができましたが、全体的には東部のほうが工場や商店が増えています。

施政方針演説でこの地域を念頭に入れ、住宅環境のすばらしいところという話をしました。桜ヶ丘地区は住宅地です。大きな工場や商店を誘致するような発展ではなく、可児市のなかでも随一のすばらしい住環境のあるところを、今後どう維持して将来に繋いでいくかが、ここの目指す発展です。この地域に住む人がどういう意識であり、皆さんが何を求めるのかをまずは考えていただいて、市がどうそれを応援できるのか、一緒にやっていけるのが大切だと思っています。

【意見】帝京可児の横の公園がまだ整備されておらず、昨年度要望を出し都市整備課に東屋などを造っていただいた。今年度も積極的に関わっていただき感謝している。今後も協力をお願いしたい。

他地区の古い公園の改修についても協力をお願いしたい。

【回答】今年度の可児市の税収は全体的に増えています。可児市は車を中心とした製造業に支えられていて、リーマンショックの時に人口はもちろん財政力も落ちました。今後の日本の経済状況をみると、まさに経済が良いと可児市も良い、駄目になると一気に駄目になるという危険な状況です。今日本の経済を支えているのは自動車産業です。こういう状況の中

で可児市も将来生きていくためにはどんどんお金を使っていくということではできません。

地域それぞれに要望がありますので、この地域の皆さんが公園を含めた環境を一番大事にしよう、これを優先してほしいという共通認識を持って話し合いをし、議会や他の地域の皆さんにも理解を求めながらやっていかなければなりません。これからもこの地域に住んでおられる皆さんの声をしっかりと聞かせていただいて、市と地域がどこまでやっていくかを考えていきます。

なかなか進まなくて申し訳ありませんが、私たちが力になれるのは、住民の皆さんが何よりも今あるまちの価値を守る、高めるところです。そこに、市が投資して欲しいという地域の声を聞かせていただくと、私たちも投資できますので、ぜひそういった意識をぶつけていただけるとありがたいです。

【意見】施政方針の結びで、市街地環境・住環境の素晴らしさが魅力となる地域と述べられている。桜ヶ丘ハイツは30代をピークにした若い世代が中心に入居している。閑静で自然豊かな住環境の良さ、安心して子育てが出来る環境の2つの良さを継承していきたいと思っている。櫻ヶ丘開発の太陽光発電設備は、優れた自然環境を持つ低層住宅地というセールスポイントを損なう。ガイドラインや条例などを作って行政が姿勢を示し、一体感のある開発誘導をお願いしたい。

【回答】太陽光発電設備について、一般論として規制を強化できるのかということがあります。条例は作れますが許認可権はないため、国の基準を守れば強制はできません。業者名を公開するくらいはできるでしょうが、強制的に止める力はありません。国は太陽光を進めるという方向性を示していますので、全国市長会で周辺環境の保全等の観点から基準を策定して許可するなどの、法的規制を行う法律を作ってほしいとお願いをしています。

櫻ヶ丘については、マスタープランに違反するものではない現状です。考え方には合っていませんが、造ると言ったら排除する根拠はありません。一方で太陽光の設備ができることでこの地域に非常に大きな問題が起きるといふ具体的問題があれば、その法律に則って指導できます。それが現状のところないようですが、あれば教えていただきたいです。最悪なのは、過度な規制をすることで規制逃れをする悪質な業者が出るこ

とです。法律に基づいて、環境を破壊しないよう対策をする計画が出た場合は、そこをしっかりとチェックして、できた後に地域の皆さんに迷惑のかからない、きちっとしたものを造ってもらうのが大事だと思っています。具体的にこの地域に対する公共の福祉を害することがあれば、指導や法律に基づく強制ができると思います。市としては違法なものは扱わせることはさせませんし、通常を受忍の範囲を超えた大きな負荷がかかってくるようなことが計画の中にあれば、しっかりと指導していきたいと思っています。

【意見】福祉車両を桜ヶ丘に設置し、東部地域の共同利用にしてほしい。

市の福祉車両4台は全て今渡の福祉センターにあり、運用管理は可児市社協となっている。桜ヶ丘及び東部地区は今渡から遠く、実際の運用がほとんどできない。桜ヶ丘に久々利、大森、平牧など東部地区用として1台配置していただきたい。移動支援ではボランティアの車に車イスが乗せられず、移動支援から外さざるを得ない悲しい状況になっている。配慮いただいて、運用管理を桜ヶ丘に任せてほしい。

地域包括システムの中で、地域支えあい活動がなかなか立ち上がらない要因のひとつとして、拠点がないということが挙げられる。平牧などは公民館の中に拠点を持っているが、他の地区社協は拠点を持っていない。ほとんどが地区社協の会長と自治連の会長が兼務になっており、手が回らないこともある。公民館がコミュニティセンターになるときは地域福祉の拠点を設置してほしい。

【回答】福祉車両については手続きなど担当で整理しており、なんとかできる方向で検討したいと思っています。

地区社協の拠点ですが、これまで生涯学習の拠点だった公民館を、地区の拠点としていきます。理由は高齢者の問題、こどもの居場所、若い人が魅力を持って住んでもらうことや災害などの課題を、それぞれの地域で解決していく拠点にするためです。生涯学習はもちろんですが、高齢者のための拠点など、どういうものにしていくのか地域の皆さんで合意してつくる仕組みです。桜ヶ丘のいろんな課題を解決するためのコミュニティセンターということで、議論していただけると大変ありがたいです。もちろん議論の中には市も入らせていただきますので、よろしくをお願いします。

【意見】桜ヶ丘地区は神社仏閣が全くないが、この地で育って地域の思い出を持って大人になってほしいと思っている。花いっぱい運動、スポーツ大会などを通じて、大人と関わったりボランティアで汗を流してもらったり、行事に参加して思い出も作るなど、ボランティアとして参加できる場面をつくってきた。地域の大人約30団体の長で青少年育成市民会議を行い、子どもを育てる共通課題を持って意見交換を年2回行っている。地域みんなで考えるということに役立っており、今後も進めていきたい。

【意見】現在要援護者調査の時期に入り、65歳以上のお宅へ訪ね歩いている。桜ヶ丘は高齢化率が市内で4番目と言われているが、心身ともに若い人が多いと感じる。

昔の向こう三軒両隣のように、みんなで声を掛け合って、いざというときに助けてと言える仕組みづくりをがんばっている。助けてと言える環境作りができたときに防災にも繋がっていくと思う。一つ一つの隠れた声を拾うことで、地区社協や包括支援センターにつなげて相談していくことも行っている。そこから安心が生まれ、住み心地一番可児につながっていくのだと思う。

防災については、土砂災害が起こったら桜ヶ丘が孤立する心配がある。公園整備について、災害時にコンロとして使えるベンチを設置していただくとありがたい。整備いただけると防災の観点からも安心な町になると思う。

【回答】桜ヶ丘は市内でもとびきり安全なところですが、安心しきってはいけません。各家庭が耐震化されていれば、まずは家具を固定しておいたり、地震が起きたら火を消したりといったことに気をつけてください。若干盛土がありますが、そういったところは公表しますので、聞きに来ていただければお教えします。今後もいろいろな研究をさせていただきます。

【意見】全国交通安全週間が本日まで行われている。桜ヶ丘ハイツ支部では園児、小中学生196名にポスターを描いてもらった。ロビーに飾っているので観て帰ってほしい。

【回答】懇談会終了後、拝見させていただきました。